
魔法と少女F

焼つくね

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法と少女F

【Nコード】

N7552H

【作者名】

焼つくね

【あらすじ】

平凡な少年「如月朔哉」は恋をしたところがその少女は魔法少女であつた！朔哉目線で物語りは進んでいく

ブログ

作品紹介

閲覧ありがとうございます。

この度はこちらのサイトで小説を書いてみることにしました

自分の作品は「魔法少女リリカルなのは」のファンフィクションです。

嫌いな方はバックをお願いします。

話は基本的に日常生活を中心にしたラブコメ的な展開です

なのはシリーズのメイン、戦闘はあまり無い予定です

そして物語に主人公はオリジナルキャラの少年「如月朔哉」です

またヒロインは高町なのはではなく、フェイト・テスタロッサ（16才設定）になります

全シリーズの原作キャラ達も設定を変えて多々登場しますのでご安心をw

でわ紹介はこんなところです、よろしくお願いします。

感想など貴重なお意見まっています。

三人の絆

季節は春

桜の花びらが舞い散り、地面を桃色へと変える

そんな道を俺は歩いていた、新しい舞台へと

俺の名前は如月朔哉^{きんづき さくや}、今年から高校生になった普通の男だ

俺は親に言われるがまま、何となくでこの学校へやって来た

成績が良かった訳でも、ずば抜けた才能があつた訳でもない

運がよかった…そんなふうに思っていた

しかし、俺がこの学校に入学するのは決まっていたのかもしれない

神様がもし存在するならば……。

「おはよう」

「おはよう」

私立那星高校^{なほし}の正門の前にはたくさんの学生が集まっていた

初々しい学生服に少し緊張した気持ちにワクワクする新生活

そして俺は正門に集まるまだ知らない生徒達の間を通り抜け学内へ入った

するとそこには見慣れた二人の男女の姿があった

「おっ！朔哉！おはよう！」

「おはよう」

この男は豊島真吾、中学時代からの友達で、いつもしつこい奴で

困る事が多いが、たまに役に立ついい友人だ

「あんた？制服似合うわね」

この長い黒髪の少女は明石恵理奈、こいつは小学校からの腐れ縁で

俺のことを嫌っているらしいが、行動が矛盾している変な女だ……

「よう、仲いいなお前ら」

「真吾ってあんたしか友達いない訳？ずっと一人でキョロキョロしてさ」

どうやら真吾を気づかい一緒にいたようだ

「ひどいな明石！別にフレがない訳ちゃうぜ」

真吾は確かに友達はあるが、しつこいあまりにみんな引いてしまうのだ

「お前ら似てるよな、人付き合いつていうのかな？」

「似てないわよ！こんなヘンテコ男！」

長い髪をかき上げて恵理奈は否定した、まるで女王様である

「明石にフレがないのは納得できるもんな」

「私だって友達の一人や二人くらい！」

俺は二人の罪の擦りつけのような姿に少し飽きれ言った

「それでさクラス表見たの？」

すると二人は同時に頷き、俺に言った

「同じクラスだぜ！」

「同じクラスよ！」

あーやっぱりこの二人とは縁があるようだ

「じゃあよろしくな真吾、恵理奈…」

「おうよ！」

「まあいいわ」

すると真吾がふと呟いた

「あつ！そうだ！俺の情報だとあの有名なFがこの学校に入学したらしいんだ」

Fとは中学時代から有名な美少女の通称で、本名を知るのはごくわずかの生徒であった

「Fと同じ中学の男子が噂してだぜ」

「Fって昔から有名だけどさ、本当にいるのか？」

俺は前から思っていた疑問を呟く

「美少女ならここにいるわよ」

恵理奈も実はモテ少女ランキングの上位者であった（中学時）

まあ、一部の面食いや変体などの票が大半であったが……

「まあ、明石もかなり美少女だけどさ、Fはすごいって言う奴らが多いぜ？金髪に真紅の瞳

外見の情報はこんな感じ、母親は有名企業の幹部って噂のある」

妙に詳しい真吾である

「Fね、俺も会えるもんなら会ってみたいもんだな」

「会えるさ！この豊島真吾様がFの正体暴いてやるぜ！」

俺達三人の高校生が始まるのだった。

弾む心

様々な思いを胸に秘めて俺達の高校生活は始まる

俺は二組の教室へ真吾と恵理奈と共に入る

するとそこには男子の塊が…

「あいつら何やってんだ？」

俺が呟くと真吾が平然とその中に入って行つた

「やっぱFはやバイな！」

「性格もいって噂だし、完璧だな」

机の上には少女の写真が何枚か置かれていた

「ほゝこの子がFか」

いきなり現れた真吾に驚く男子生徒達

「誰だよお前！？」

一人の男子が尋ねた

「俺か？俺は豊島真吾だ！以後よろ！」

軽めの挨拶に少し戸惑う男子達

「それよりこの写真の子！Fなんだろう？」

金髪の髪に真紅の瞳、少女の写真は情報に一致していた

「ああ、そうさ俺がゲットしたんだぜ！」

すると真吾は瞬時に口を開く

「誰からゲッツした？」

するとその男子は少し控えめに答える

「ひぐらし かなめ
日暮要だ」

俺の記憶によると、そいつは有名なカメラマニアらしく

依頼されれば、なんでもかんでも撮りまくっている男らしい

「この学校にいるのか？日暮要が？」

真吾が変なテンションで質問した

「ああ、俺は日暮と同じ中学だったんだ」

「なる、おもしろくなってきた」

すると真吾は瞬時に俺と恵理奈の元に帰還した

「で？どうだった？」

自分達の席に座るとニヤニヤしながら真吾は話し出す

「この学校、かなりおもしろいぜ」

「なにがよ？」

恵理奈が真吾に聞くと真吾は語りだす

「噂の美少女F、何でもカメラマン日暮、そして俺！」

「あんたはなんなのよ！」

しかし恵理奈の突っ込みは虚しくスルーされ、真吾のテンションは鰻昇りだ

「朔哉！お前も楽しめよ！学生生活をさ」

ひとりで舞い上がる真吾をよそに、あくびする俺

「朔哉は私が楽しませてあげるわよ！最高の嫌がらせでね！」

こいつも相変わらずである、言っている内容が中1から変わらない

……

「まあ、それなりに楽しむは」

その時の俺は軽い気持ちだった

高校もまた将来の夢みたいなもんを探せないまま終わるんだろな

やりたい事なんて無いし、守るものや譲れないプライドも無い

そんな俺はこれからどうする？

なにもつかめないまま大学生？社会人？になんのかな

今の俺はそんな不安を抱えていた

それが真実であり、隠すことでもない

でも、もし何かが変われば俺は変われるのか？そんな気もする

それが希望でもあった

人は変われる…あきらめないで努力すれば絶対に

だから朔哉はここにいて…私が見ててあげるから

そんな言葉を俺に言ってくれる人の存在に気づくまでは……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7552h/>

魔法と少女F

2010年10月12日08時06分発行